

## AZMA の江戸・日本文化・科学技術探訪

Selamat Pagi !

MALAYSIA ウィークの最終日の 1 月 16 日、University of Tsukuba Malaysia Kuala Lumpur Office の Azma さんに江戸・日本文化・科学技術を紹介した。KL オフィスの役割は、マレーシア学生の筑波大留学の支援と、筑波大学生がマレーシア訪問時に支援することであり、支援者である Azma さんが、日本・筑波大学の事情に通じていることは非常に重要です。今回の筑波大学研修も、そのような意図から企画され、合わせて Malaysia Day in Tsukuba を開催したものである。

TX 浅草駅に降り立ち、澄み渡る真冬の空にはためく色鮮やかなのぼり旗を仰ぎみながら、まずは、浅草公会堂へ。建物正面には、今や「世界の KITANO TAKESHI」となったビートたけしや歌舞伎の坂東玉三郎、「下町の玉三郎」と親しまれている梅沢富美男、池波正太郎の時代劇「鬼平犯科帳」の長谷川平蔵役でお馴染みの中村吉右衛門など、日本を代表する新旧のスターたちの手形が嵌め込まれています。朝の散歩中の園児たちに Azuma さんも思わず、日本語で「Kawaii!」。アジア圏でも日本の「カワイイ文化」が浸透し、もはや「kawaii」は世界共通語とのこと。

浅草寺は午前中の早い時間帯でも校外学習の小中学生の団体や外国人観光客で混雑し、雷門前での記念撮影も順番待ちの状態。仲見世を通りぬけて隅田川に架かる吾妻橋へ。ここから東京スカイツリーとアサヒビールの屋上にある炎のモニュメントを同時に仰ぎ見ることに成功。

次に、主目的地の上野に向かい国立科学博物館へ。国内外の貴重な科学資料標本が収蔵されており、年間を通じて様々な企画展が開催されている。まず、筑波大学 OB の小川義和課長に面会、科学博物館の仕組みや見どころについて取材した（小川義和氏の紹介は「卒業生の活動記事」参照 [http://www.life.tsukuba.ac.jp/students/graduate\\_20130718\\_a.pdf](http://www.life.tsukuba.ac.jp/students/graduate_20130718_a.pdf)）。その後、特別展「ヒカリ展」や常設展示（恐竜の化石や希少動物の剥製など）を見学し、日本の科学に関する理解を深める研修を行った。

クアラルンプールの MJIT の近隣にあるペトロナスツインタワーにはマレーシア国営の石油会社ペトロナスが運営する国立科学博物館「ペトロサイエンス」があり、小川氏も訪問されたことがあるとのこと。現在、国立科学博物館・上野本館ではまだアジア圏からの研究員はいないが、是非、マレーシア留学生が筑波大で学び、国立科学博物館で研究者として活躍して欲しいものです。

日本の文化、科学技術が濃縮された浅草、上野は TX で 1 時間の近さにあります。筑波大学で学ぶすべての人たちが古今の日本文化と科学技術に触れるようお勧めしたい。

(記事・写真 藤枝八千代)



浅草寺・雷門(正式名称は、風雷神門)



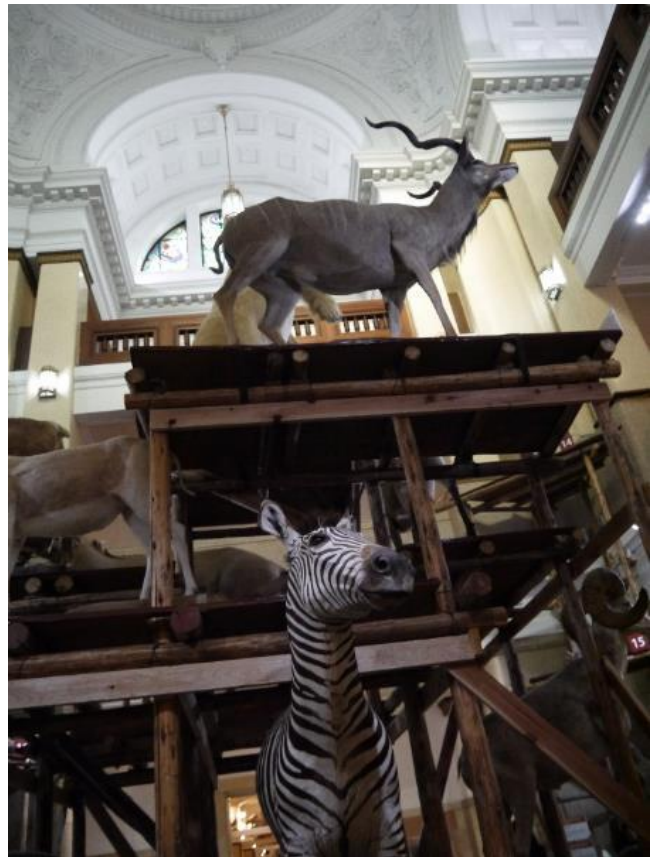
浅草公会堂前にて



隅田川にかかる吾妻橋にて



TV ドラマのロケにも使われる  
国立科学博物館の正面玄関



1997年に W.T ヨシモト財団から  
科学博物館に寄贈された貴重な剥製標本

